

日澱化學株式会社

2016年度環境活動レポート

(対象期間：2016年4月～2017年 3月)



作成日：2017年7月24日

□ ごあいさつ

日澱化学株式会社は、一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。

このたび日澱化学株式会社は、創業の地 淀川区三津屋北で創立100周年を迎えることができました。長年にわたりお世話になったお取引様、そして見守り続けていただいた地元地域の皆様に心から感謝申し上げます。

1917年に前身である合資会社日本澱粉製造所は、日本で初めて焙焼デキストリンとソルブルスターチの工業生産を開始いたしました。明治以降、著しい商工業の興隆を見た大阪では近代的な紡績工場の開設が相次ぎ、織布や染色に用いる加工澱粉が求められていました。天然の高分子である澱粉、そして植物の種類によりそれぞれに特長がある澱粉、その素材をより使い易くした加工澱粉は、繊維や紙などの工業分野ばかりでなく様々な食品分野でもなくてはならない素材となりました。

毎年収穫される芋類や穀類から得られる澱粉は、緑葉体の中で光エネルギーを使って水と二酸化炭素から合成され、その過程で大気中に大量の酸素を供給しています。この地球環境にやさしい素材である澱粉の長所をさらに生かすために、使用する薬品や精製用の水はもとより、乾燥するための熱も大切に使う加工澱粉を生産しています。さらに環境保全に役立つ製品や用途の開発に取り組み、またグリーン購入、廃棄物の削減、節水、化学物質の適正管理など、あらゆる面に留意し全社一丸となって成果を上げるべく日々努力しています。

日澱化学株式会社は、これからも環境負荷低減活動と環境教育を通して、社会貢献の観点より環境保全活動に取り組んでいきます。

日 澱 化 学 株 式 会 社
代表取締役社長 北本俊彦

環 境 方 針

< 環境理念 >

日澱化学株式会社は、環境保全が経営の重要課題であることを踏まえ、環境経営システムを構築・運用し、全社一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。当社の加工でんぷん製造等の事業活動における環境負荷の低減のため、行動指針を次のように定めます。

< 環境保全への行動指針 >

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立て、継続的改善に努めます。
 - ① 低炭素社会のための省エネルギー
 - ② 循環型社会のための廃棄物の削減及び食品廃棄物再資源化の推進
 - ③ 循環型社会のための省資源、節水の推進
 - ④ 各種委員会等を通じての環境教育の実施及び啓発推進
 - ⑤ 化学物質の適正管理のもとに環境に有害な物質の使用量の削減
 - ⑥ 環境に配慮したグリーン購入の推進
 - ⑦ 環境に配慮した製品の研究開発と販売促進
3. 当社のために働くすべての社員にこの環境方針を周知し、環境活動レポートにて社外へ公表します。

制定日：2006年11月10日

改定日：2012年6月26日

代表取締役社長 北本俊彦

日 澱 化 學 株 式 会 社

行 動 指 針

省 工 ネ ・ 節 水

薬 品 ・ 廃 棄 物 の 削 減

環 境 教 育 の 継 続

グ リ ー ン 購 入 の 推 進

環 境 に 配 慮 し た 製 品 の 開 発 と 販 売 促 進



全員が周知し、法規制を遵守

2006年11月10日（2012年6月26日改訂）

代表取締役社長 北本俊彦

地球温暖化防止と循環型社会の構築
～未来の子供たちのために～

□ 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

日澱化学株式会社 代表取締役社長 北本俊彦

(2) 所在地

本社 大阪市淀川区三津屋北3丁目3番29号
東京営業所 東京都中央区日本橋本町3丁目2番13号
アドバンテック日本橋ビル8階

(3) 環境管理責任者・食品リサイクル責任者 氏名及び担当者連絡先

責任者	取締役工場長	笹岡一男	TEL：06-6309-1263
担当者	総務部	太田 寛	TEL：06-6309-1263
	生産部	大槻晋一	TEL：06-6309-7653

(4) 事業内容（認証・登録の範囲）

加工でんぷんの製造・販売



(5) 事業の規模

製品出荷額 51億円／年（2016.5/1～2017.4/30） ※事業年度は5/1-4/30

	本社	東京営業所
従業員	157	8
敷地面積	20,938㎡	164.23㎡（延べ床面積）

(6) 会社の沿革

1917年 5月	合資会社日本澱粉製造所設立。赤玉印（Red Ball Brand）の商標にて、日本で初めて加工でんぷん（焙焼デキストリン・ソルブルスターチ）の生産を開始
1942年 5月	株式会社に改組し、日本澱粉製造株式会社となる
1955年	架橋でんぷんの生産を開始
1957年	アルファ化でんぷんの生産を開始
1960年	でんぷん誘導體（エーテル化でんぷん）の生産を開始
1962年	特許取得した流動焙焼装置による焙焼デキストリンの量産化を開始
1963年	酵素デキストリンの生産を開始。捺染用変性グアーガムの生産を開始
1964年	スプレードライヤーによる酵素デキストリンの量産化を開始
1965年 6月	東京営業所開設
1967年 8月	創業50周年を契機として、日澱化学株式会社と社名変更
1974年 6月	資本金1億円に増資
1987年 8月	タイ国で合弁会社 NIC STARCH PRODUCTS LTD. 設立
2007年 9月	エコアクション21認証登録(工場、研究開発室)
2010年 4月	大阪工場内に新社屋竣工
2010年 9月	エコアクション21全社での認証取得
2017年 5月	創業100周年

□ 主な環境負荷の実績

「本社」（2009年までは「大阪工場・研究開発」）

項目	単位	2013年	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	5,301	5,320	5,535	5,821
エネルギー原単位	L/t	214.95	221.97	221.7	217.8
廃棄物総排出量(リサイクル含む)	t	349	355	382	388
一般廃棄物排出量	t	1.15	1.05	1.42	1.38
産業廃棄物排出量	t	348	337	362	369
総排水量	m ³	205,890	197,662	201,278	201,283
上水道	m ³	7,656	7,807	7,883	8,356
工業用水	m ³	198,234	189,855	193,395	192,927
(生産数量) 対基準年比(2009年を 100として)		99.64	97.69	96.23	101.78
食品廃棄物再資源化率	基準年2007年49.55%	98%	100%	100%	100%

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.358 kg-CO₂/kWh

「東京営業所」

項目	単位	2013年	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素総排出量	t-CO ₂	6	5	6	6
廃棄物排出量(一般)	t	0.23	0.23	0.23	0.23
総排水量	m ³	18	18	18	18

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.375 kg-CO₂/kWh

環境負荷の概要

当社の生産活動による環境負荷は都市ガスが大きな割合で、生産量、生産品目によって、大きく左右されます。また、第1種エネルギー管理指定工場に指定されており、中長期計画を立てて、エネルギーの原単位の削減に取り組んでいます。

□ 環境目標及びその実績

項目	年度	基準値	2016		2017	2018
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
エネルギー原単位の削減 (2008年度から原単位の算出方法を見直しています)	L/t	263.9	240.1	217.8	237.5	234.9
	基準年比	2007年	91%	83%	90%	89%
	CO ₂ 排出量	6,689	6,087	5,821	6,020	5,953
	t					
「本社」分	基準年比	2007年	91%	87%	90%	89%
	L/m ²	0.02811	0.02670	0.02392	0.02642	0.02614
	基準年比	2009年	95%	85%	94%	93%
「東京営業所」分	CO ₂ 排出量	7	7	6	7	7
	t					
一般廃棄物の削減	t	2.05	1.89	1.38	1.87	1.85
	基準年比	2010年	92%	67%	91%	90%
産業廃棄物の削減 廃プラ分	t	37.9	37.5	28.6	37.1	36.8
	基準年比	2013年	99%	75%	98%	97%
産業廃棄物の削減 焼却灰分	t	12.3	6.2	1.3	4.9	3.7
	基準年比	2005年	50%	11%	40%	30%
産業廃棄物の削減 汚泥(堆肥化)	t	79.0	73.5	78.9	73.5	73.5
	基準年比	2010年	93%	100%	93%	93%
産業廃棄物の削減 汚泥(飼料化)	t	166.0	161.0	185.1	185.1	185.9
	基準年比	2010年	97%	112%	112%	112%

項目	年度	基準値	2016		2017	2018
			(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)
食品廃棄物再資源化率 (発生量は汚泥の堆肥 化・飼料化に含まれて います)	発生量	214.76t		146.4t		
	再生利用量	214.76t		146.4t		
	再資源化率	100.00%	90%	100%	100%	100%
	基準年比	2010年	90%	100%	100%	100%
工業用水の削減	m ³	231,499	203,719	192,927	203,719	203,719
	基準年比	2010年	88%	83%	88%	88%
上水道の削減	m ³	7,807	7,807	8,356	7,807	7,807
	基準年比	2014年	100%	107%	100%	100%
化学物質の適正管理に よる削減	t	208.9	208.9	214.7	208.9	208.9
	基準年比	2015	100%	103%	100%	100%
グリーン購入の推進 (エコ商品購入率)	%	47.24%	47.24%	46.02%	59.99%	59.99%
	基準年比	2013年	100%	97%	127%	127%
環境教育の推進	<p>定例会議（3ヶ月に1回）を開催し、必要な情報の共有化と自主的目標達成を中心に、環境教育を継続しています。</p> <p>また、可能な限り環境に関しての講習、講演会、各種見学会に参加し、情報の収集を継続するとともに、環境に関する各種教育を推進しています。</p> <p>特に、クレーム削減については、環境負荷低減に大きく貢献するとの認識の元、所属長が中心となり、クレーム削減活動を展開しております。</p>					
環境に配慮した製品の 開発と販売の促進	<p>営業部門と研究開発部門から担当者を選出し、定期的に取り組状況をチェックしています。</p> <p>「環境に配慮した製品の開発と販売の促進」は、会社の業績に直接関係する項目ですので、特に力を入れて取り組んでいます。</p>					

「本社棟」「東京営業所」分(本社棟電力、上水道は、上記データに含まれています)

項目	年度	基準値	2016		2017	2018
			(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)
コピー用紙の削減 「本社棟」	枚	243,357	239,194	241,634	241,634	241,634
	基準年比	'09年、'15年	98%	99%	99%	99%
ガス使用量の削減 「本社棟」	m ³	8,470	7,962	6,943	7,962	7,877
	基準年比	2010年	94%	82%	94%	93%
使用電力の削減 「本社棟」	kWh	92,032	73,626	66,032	72,705	71,785
	基準年比	2010年	80%	72%	79%	78%
上水道の削減 「本社棟」	m ³	375	375	437	437	437
	基準年比	2014年	100%	117%	117%	117%
コピー用紙の削減 「東京営業所」	枚	21,162	21,162	24,023	24,023	24,023
	基準年比	2014年	100%	114%	114%	114%
使用電力の削減 「東京営業所」	kWh	18,556	17,257	15,271	17,072	16,886
	基準年比	2009年	93%	82%	92%	91%

L/t、L/m³のLは原油換算量

□ 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価 (結果と次年度の取組内容)
エネルギー原単位、二酸化炭素排出量の削減			
数値目標 原単位	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
数値目標 二酸化炭素	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	目標を達成しました。引き続き、省エネ委員会が中心となり、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。各課の管理職が課題を提案し負荷低減に取り組んでいます。
原単位目標説明	◎	継続	
省エネ委員会を通じての各種対策の実施	◎	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	年間を通じて、ほぼ一般廃棄物削減が継続出来ました。昨年度に続き、分別の徹底を推進した事も大きく貢献したと思われまます。リサイクルの推奨を含むグリーン購入を推進し、一般廃棄物削減を推進していきます。
削減目標説明	◎	継続	
グリーン購入とリサイクルの推奨	◎	継続	
分別推進による古紙回収の推進	◎	継続	
産業廃棄物の削減(廃プラ)			
数値目標	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	目標を達成しました。管理監督者会議を通じて各部署 分別の徹底に取り組みました。引き続き継続していきます。
削減目標説明	◎	継続	
空フレコンバック再利用の推進	◎	継続	
ペットボトルリサイクルの推進	◎	継続	
分別推進の継続	◎	継続	
産業廃棄物の削減(焼却灰)			
数値目標	◎	■ 上方修正 □ 下方修正 □ 基準見直し	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	基準年に比べ、大幅に減少しています。効率的な運用を推進し、更なる削減を推進していきます。
削減目標説明	◎	継続	
投入量、処分量の正確な把握	◎	継続	
分別推進の継続	◎	継続	
産業廃棄物の削減(肥料化)			
数値目標	○	□ 上方修正 □ 下方修正 ■ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	今年度は、焼却炉が約半年間使用できなかったため、発生量が増加しました。焼却炉の適正使用と飼料化推進により、引き続き削減を継続します。
削減目標説明	◎	継続	
飼料化の推進継続	◎	継続	
分別推進の継続	◎	継続	
産業廃棄物の削減(飼料化)			
数値目標	○	□ 上方修正 □ 下方修正 ■ 現状維持	
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	今年度は約4ヶ月の現場連続運転により、発生量が増加しました。引き続き発生量を正確に把握し、削減を継続を推進します。
削減目標説明	◎	継続	
飼料化の推進継続	◎	継続	
分別推進の継続	◎	継続	

工業用水の削減			
数値目標	◎	■ 上方修正	□ 下方修正 □ 基準見直し
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	年間を通じ、月ごとの目標は、増減しましたが、トータルで目標を達成する事が出来ました。節水対策の効果が出ていると思われるので、引き続き節水対策を継続し効果を出していきます。
削減目標説明	◎	継続	
節水呼びかけの継続	◎	継続	
上水道の削減			
数値目標	△	□ 上方修正	□ 下方修正 ■ 現状維持
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	全体を通して、使用量が増加しました。週末の出勤日が増加した事も大きく影響していますので、現状維持を目標に再設定し、目標達成に向け取り組んでまいります。
削減目標説明	◎	継続	
節水呼びかけの継続	◎	継続	
化学物質の使用量削減			
数値目標	○	□ 上方修正	□ 下方修正 ■ 現状維持
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	昨年とほぼ同じ使用量となりました。生産量の増加等により使用量が上下しますが、現状維持を目標に引き続き原単位チェック等に取り組んでまいります。
生産ミスによるムダな使用量の削減	◎	継続	
生産工程・処方変更による使用量削減	◎	継続	
食品廃棄物再生資源化の推進			
数値目標	◎	■ 上方修正	□ 下方修正 □ 基準見直し
各種会議を通じての削減要請及び教育	◎	継続	食品用途の廃棄物については、100%の再資源化を達成しました。来年度も100%の再資源化率達成を目指し取り組んでまいります。また、飼料化を推進する事で、レベルの高い再資源化を継続していきたいと思えます。
再資源化目標の説明	◎	継続	
分別回収の推進	◎	継続	
適正処理状況の正確な把握	◎	継続	
飼料化推進の継続	◎	継続	
グリーン購入の推進			
数値目標	○	□ 上方修正	□ 下方修正 ■ 基準見直し
業務部会議推進による情報の共有化	◎	継続	業務部門(購買)が中心となり、物品購入の前に社内代替品の検討や購買時にエコや省エネ配慮の商品を検討しています。廃棄時の事も考慮に入れるよう申し合わせも行っています。また、施設部門では、廃棄品の内再利用が可能な部品は取り置き、安全に配慮した上で、再利用を進めています。
代替品検討による購入抑制の推進	◎	継続	
有害性の少ない資材の購入推進	◎	継続	
省エネ性能の高い製品の購入の検討	◎	継続	
事務品購入規定に伴うエコ商品購入	◎	継続	
施設部門による再利用の推進	◎	継続	
環境美化の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ● 2004年から毎年、大阪市一斉清掃「クリーンおおさか」に参加し、地域の清掃、環境美化に協力しています。 ● 社内においては2005年から毎週月曜日（第1月曜日は除く）全域清掃を実施し、環境美化を推進しています。 ● 2016年度も同様に大阪市一斉清掃「おおさかマラソン・クリーンアップ作戦」、近隣企業と協力し社外清掃、社内全域清掃を計画的に実施し、環境美化を推進しています。 			

環境に配慮した製品の開発と販売促進

開発会議の推進	◎	継続	研究開発室の開発会議、営業部門の営業会議等を通じての環境配慮の再確認と品質管理部・生産部による製造工程の見直しやクレーム削減・規格外品の削減活動継続してムダを削減する事による環境配慮を継続しています。 また、環境委員会等を通じての進捗状況を確認し、更なるスパイラルアップを目指してまいります。
新規開発			
現行製品の見直し			
製造工程の見直し その他			
製造機械の見直し等業務改善推進	◎	継続	
クレーム・規格外品の削減	◎	継続	
営業会議の推進	◎	継続	
環境配慮品への切り替え推進			
現行品の見直し			
効率的な配送体制の確立			
環境委員会を通じての進捗状況の確認	◎	継続	

その他の環境管理活動

- 2016年8月、風呂の給湯方法を、タンク貯湯式から直接給湯式へ更新



- 2016年9月、津波避難訓練を実施



- 2017年4月、2箇所に分かれていた変電所を統合



生産部

《 製造各課 》

窒素発生装置の設置



水冷チラー更新



ドラム反転装置設置による作業軽減



純水タンク更新及び圧力タンク設置による
ポンプの運転時間短縮



《 施設課 》

エアコンの更新



物流課分室

ストレッチフィルム売却による廃棄物削減



研究棟

冷蔵庫導入による放熱防止



本社棟

職場の整理整頓
(実施前)



(実施後)



ハイブリットファンの設置



緑化の推進



東京営業所

窓に遮光カーテン（災害用ブランケット）
を貼付



□ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	ボイラー、乾燥設備
大気汚染防止法	ボイラー、乾燥設備
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
P R T R法	プロピレンオキサイド他
廃棄物処理法	一般廃棄物、廃プラ、焼却灰、汚泥等
工場立地法	工場内緑化
下水道法	工場廃水
ダイオキシン類特別対策措置法	焼却炉
エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）	都市ガス、電気、L P G
消防法（危険物）	プロピレンオキサイド、メタノール
労働安全衛生法	リスクアセスメント・ストレスチェック
食品リサイクル法	食品用途の澱粉残さ ※「再生率80%以上の維持」に対し、当社100%
フロン排出抑制法	業務用の冷凍空調機器

環境関連法規制等の遵守状況については、現在、問題はありません。

その他につきまして、定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

2014年3月19日	大阪市消防局長より消防功績顕彰（会社宛）を受賞。 （消防用設備の充実と危険物施設の安全管理を尽くした功績により）
2015年3月10日	「なにわエコ会議」主催の「節電・省エネコンペ」において 「技術賞」を受賞。
2015年10月15日	当事業所を「淀川区災害時地域協力事業所」として登録。 （淀川区災害対策本部にて）
2015年12月26日	「なにわエコ会議」主催の「節電・省エネコンペ」において 「協力感謝状」を授与。
2017年2月8日	「なにわエコ会議」主催の「二酸化炭素削減コンペ」において 「協力感謝状」を授与。
2017年3月3日	大阪市消防局長より消防功績顕彰（工場長宛）を受賞。 （消防用設備の充実と危険物施設の安全管理を尽くした功績により）

□ 代表者による全体評価と見直しの結果

2017年7月25日 代表者による全体評価と見直しを行いました。結果を以下の通り報告致します。

[環境方針]

現行方針を継続し、行動指針に基づき計画を実行し、成果を上げてください。

[目標・環境活動計画]

生産量が増加傾向にありますが、効率の良い製造を心掛け、エネルギー原単位を削減してCO₂排出量の低減に努めて下さい。

活動計画においては、活動状況が△であった項目について具体的な計画と取組を実行してください。

[環境経営システムの各要素]

環境管理事務局が主体となり、しっかりとした体制を構築し、全従業員が環境管理、環境保全活動に取組み成果を出せるように引き続き推進してください。

職制・監督者会議が中心となり、安全に配慮しつつ自主的目標の達成を目指し成果を上げて下さい。